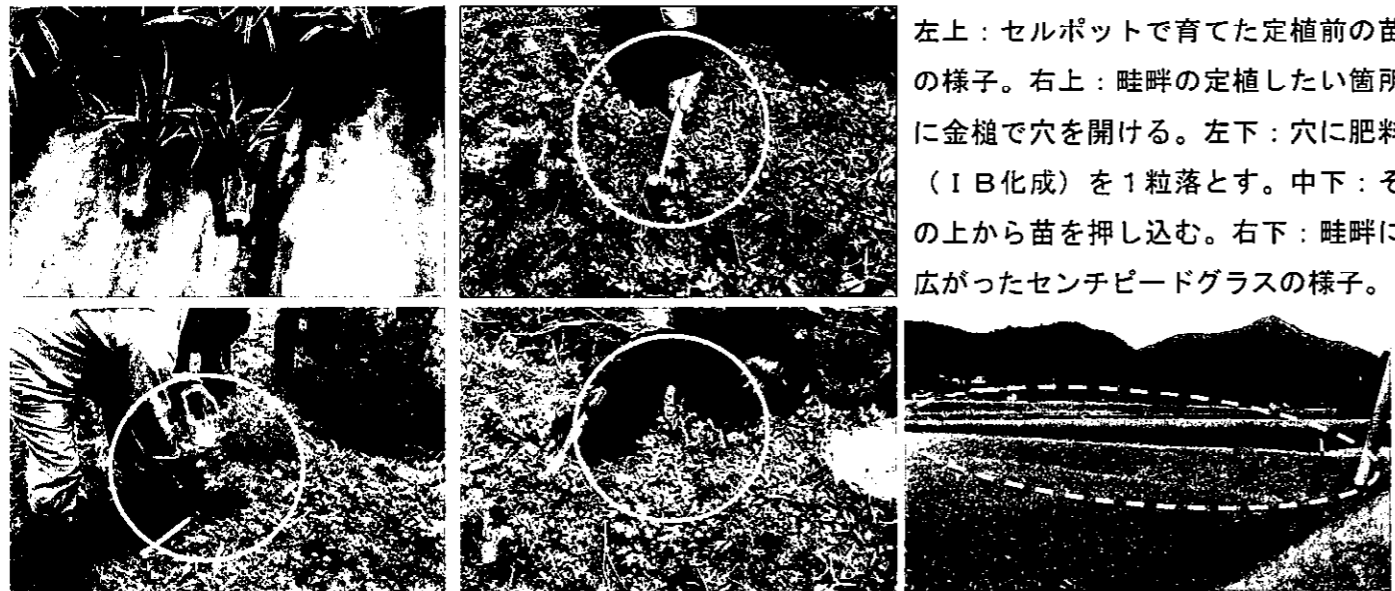


**畦畔管理の省力化に向けて10年以上取り組んでいます！～日田市（農）小野谷～**

（農）小野谷は畦畔管理の労務を軽減するために、被覆植物（カバークロープ）の導入を積極的に進めています。センチピードグラス（和名：ムカデシバ）は、ゴルフ場のラフなどにも用いられている芝草で、草刈り作業の省力化を目的に栽培されています。今回は（農）小野谷で用いられているセル苗を移植する方法を紹介します。



左上：セルポットで育てた定植前の苗の様子。右上：畦畔の定植したい箇所に金槌で穴を開ける。左下：穴に肥料（IB化成）を1粒落とす。中下：その上から苗を押し込む。右下：畦畔に広がったセンチピードグラスの様子。

また、ヒメイワダレソウは白い小花をつけることから、畦畔管理の省力化に加えて景観美化にも一役買っています。（農）小野谷では畦畔に防草シートを張り、ポット苗による定植に取り組んでいます。



左：定植前の苗の様子。中：防草シートの上から定植。右：無数の白い花をつける。

**畦畔管理をもっと楽に！～抑草剤グラスショート液剤の紹介～**

グラスショート液剤は、水田畦畔および非農耕地を対象に開発された抑草剤です。イネ科雑草（チガヤなど）の草丈を抑制し多くの広葉雑草を枯死させることができるので、水田畦畔、農道、水路などの法面の草刈回数を減らすことが可能になります。雑草を完全に枯死させる訳ではなく、雑草の草丈を抑制する作用をもっているため、裸地化による法面の崩壊を防ぐことができます。

西部管内でも、グラスショート液剤を使用して草刈の労力軽減に取り組んでいる集落営農法人があり、効果が出ています。草刈の人員確保、高い法面での作業などに苦労されている方、ぜひ取り組んでみませんか？

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落営農・水田班  
 監修 大分県集落営農推進西部支部  
 TEL：0973-22-2585 FAX：0973-23-2219

# 集落営農かわら版

平成31年1月1日 VOL. 31  
 大分県西部振興局農山村振興部  
 大分県集落営農推進西部支部

**シリーズ～新たな取り組みへのチャレンジ～**

**ニンニク栽培に挑戦中！～日田市天瀬町 杉河内営農組合～**

平成30年1月に設立された杉河内営農組合では、ニンニクの試験栽培（約10a）を始めました。定植前にニンニク栽培に関する勉強会を行い（11名参加）、栽培のポイントについて確認しました。勉強会では多くの質問や意見が出され、ニンニク栽培への熱心な思いが伝わってきました。

定植作業は地区内の女性が中心となって和気あいあいとした雰囲気で行われました。土寄せ、マルチ張りの作業も終了し、現在、順調に生育しています。今後も、地区の収入を増やすため杉河内地区に適する高収益の園芸品目の検討を引き続き行っていく予定です。



**継続は力なり**

**イネ発酵粗飼料（WCS）を作り続けています！**

～大肥郷、求来里、あさひ、つかだ、書曲、きりかぶ、ごご、わいわい、浦の原～

西部管内では、イネ発酵粗飼料（WCS）の作付に取り組んでいる集落営農法人があります。WCSとはイネの実と茎葉を同時に収穫し発酵させた牛の飼料のことです。WCSの作付にあたり、「たちあやか」や「たちすずか」、「夢あおば」、「ホシアオバ」といった専用品種も導入されています。

（農）大肥郷ふるさと農業振興会では、「たちすずか」を乾田直播で作付しており低コスト化を図っています。



（農）つかだでは、WCS収穫機とラッピングマシーンを所有しており、地区内での作付に加え、他地区での収穫受託にも取り組んでいます。

耕畜連携の一環として、今後もWCSの取組が継続されることを期待しています。

## 他地区の優良事例

### 地域づくりと一体の取り組み！ ～(農) ふき村 (豊後高田市)～

(農) ふき村では、地域づくりを担う「ふき活性化協議会」や自治会等と一体となり、地域情報の発信や交流人口の獲得に努めており、市の特産品である「ぶんご合鴨」の飼育・加工品開発も収益源とすべく取り組みを強化しています。一方、水田作においても高度利用による収益性の向上と省力化を両立すべく、水稻・麦・大豆の他にそばやナタネ、ハトムギ等新規品目を取り入れた輪作体系を模索しています。

### 地区外から人材確保！ ～(農) いけのうち (国東市武蔵町)～

次世代に継ぐには生産基盤の整備が必要との考えから、平成24年に「池ノ内地域農業デザイン会議」を設立し、今後の地域農業のあり方について検討を重ねた中で出てきたのが小ネギリースハウスの構想です。集落でもっとも条件の良い農地2haを集め、国東市農業公社が建設する新規就農者向けのリースハウスの建設予定地として準備しています。ここで2名の新規就農者を受け入れることで、集落の後継者を外部から呼びこもうとしています。

### 佐伯市 人材バンク

佐伯市では、農業における高齢化、担い手不足への新たな対策として、「さいき農業サポート人材バンク」が設置されています。「人手を必要とする農業者」と「農業を手伝いたい方(サポーター)」を結びつける、農作業に特化した無料職業紹介です。初年度である本年は、10組以上がマッチングしており、今後は市を越えてサポーターとのマッチングを進めていくとのことです。

### 乾しいたけを導入！ ～(農) こがらこ生産組合 (宇佐市安心院町)～

集落の農家戸数9戸という小さな集落で5名で設立している法人です。この法人の特徴は乾しいたけに法人として取り組んでいることです。約8万駒を駒打ちすることで平成29年には約360万円の売上を上げ、労務費や燃料代を払っても半分程度は残るそうです。乾しいたけの取り組みは前リーダーの遺志と施設を引き継いだものですが、水稻だけでは収入がない5～8月の収入源になっています。

### 乾しいたけ生産のすすめ

質量ともに日本一を誇る乾しいたけの生産者を確保するため、平成30年度から県独自に原木乾しいたけ栽培に技術を絞った年600時間(10～3月までの半年間)の新たな就業前研修制度を始めています。

#### ●給付要件等

○就業予定時の年齢 大分県内在住者：45歳未満、県外からの移住者：55歳未満

○給付金額(年・600時間毎に)

【独立就業型】 就業予定時45歳未満：75万円、就業予定時45歳以上55歳未満：50万円

【親元就業型】 就業予定時45歳未満：50万円、就業予定時45歳以上55歳未満：50万円

技術や設備導入も手厚くサポートします。乾しいたけ栽培に関心のある方や農業との複合経営を考えている方、ご相談お待ちしております。

☆問合せ先☆ 大分県西部振興局 農山村振興部 林業・木材・椎茸第2班 TEL：(0973)-22-2585

## 畑地化推進品目の紹介

国の米施策の見直しで「米の直接支払交付金」が終了となったことから、大分県では農家所得の向上を図るために、収益性の高い園芸作物等を積極的に進めることになりました。そのため、西部振興局では、市町や農協等の野菜関係者と協議を行い、水田畑地化に向けた重点推進品目として、以下の野菜品目を今後すすめることになりました。

重点推進品目の導入には、基盤整備や営農排水による畑地化が必要になりますが、収益性の高い品目による農業所得の向上に繋がります。西部管内の集落営農組織では、既に水田畑地化による野菜品目の栽培に取り組んでいる組織もありますので、新たに取り組む際にはぜひご相談ください。

表 各市町毎の水田畑地化に向けた重点推進品目

市町	品目名
日田市	にんにく、キャベツ、チンゲンサイ、ピーマン、きゅうり、わさび、かぼちゃ、かんしょ※(※特に水はけのよい土地に限る)
玖珠町	ピーマン、トマト、白ねぎ、さといも、にんにく、きゅうり
九重町	トマト、ミニトマト、白ねぎ、キャベツ、にんにく、さといも、とうがらし



太字：大分県農林水産部農地活用・集落営農課重点推進品目

☆問合せ先☆ 大分県西部振興局 生産流通部 野菜班 TEL：(0973)-23-2217

### 農協との意見交換会を開催しました！～玖珠九重集落営農組織連絡協議会～

9月19日に玖珠九重集落営農組織連絡協議会とJA玖珠九重との意見交換会が開催されました。

この会は、地域農業を支える立場のJAと地域の水田農業の重要な担い手である集落営農組織が意見を交換し合うことで地域農業の維持・発展に資することを目的に企画され、本年度で2回目の開催となります。

JA側からはまず自己改革の進捗状況の報告として、良食味米の生産による高付加価値化販売の取り組みが紹介されました。また、JAの事業紹介として、近代化資金の金利減免事業や独自企画のトラクターの共同購入が紹介されました。

意見交換の場では、JA側から市場ニーズのある品目として高菜の生産者を募集中であることや、本年度の良食味米コンテストの企画説明がありました。集落営農組織からは本年産から新たに扱われるようになった水稻



品種「つや姫」の販路に対する質問等の意見が出されました。

また、JAが検討中の”移動店舗”の取り組みについて、概要や実現に向けての進捗状況が議論され、周辺地域の生活維持の観点から非常に期待される取り組みとの評価がなされました。

集落営農組織には農業の担い手だけでなく、地域の生活環境を保全する機能も果たしていることから、今後も幅広い関係機関と協力してよりよい取り組みに結びつけることが期待されます。